

主な内容

同窓会の健全な収支運営のために	執行部	(1)
国公立大学の合格者増	松本麻里子	(2)
2014 年度 大学入試合格者数		(3)
学校だより		(4)
平成 26 年度 総会・懇親会のご案内		(4)
平成 26 年度 通常総会 議案書		(5)
募金実績報告 募金者名一覧		(9)
新卒者からの会費前納制の導入と実績		(9)
クラス会だより		(10)
クラス会などの開催予告・案内		(13)
菅野博文君のデュオ・リサイタル		(13)
私の近況 卒後十年		(13)
獨協中学・高等学校 PTA より「獨協祭・バザー用品ご寄付のお願い」	鈴木一郎	(15)
学校だより		(15)
物故者名簿		(16)
平成 26 年度 獨協祭参加依頼		(16)
編集後記		(16)

<http://www.dokkyo-mejiro.com>

獨協同窓会

検索



第 82 号

平成 26 年 5 月 25 日発行

発行所 〒 112-0014 東京都文京区関口 3-8-1

TEL / FAX 03 (3946) 6352 (直通)

獨協同窓会 発行責任者 浅野 一

同窓会の健全な収支運営のために

獨協同窓会 執行部

獨協同窓会は、これまで比較的健全な運営を行ってこれてきました。諸先輩方の努力により基本財産も充実し、また高金利の時代には資産運用が好調で基本財産の拡充に努めてこれたようです。

同窓会の役割としては、いまさら言うまでもありませんが、同窓生の親睦、情報交換の場の提供、会報発行、母校の発展及び在校生への支援などが基本であると言えます。近年、母校への支援の必要から多額の寄付を母校にしていまいりました。平成 10 年には母校の新築に当たり 4 千万円を、また去年は学園創立 130 周年を機に在校生の奨学金制度の拡充に向け 1 千万円を寄付いたしました。これらの寄付により、基本財産は半減しました。

一方、本会の収入を見ますと、中学校へ入学した生徒からの入会金収入と一般の会員からの年度会費収入が主たる収入源となっております。

入会金については、現在は中学・高校の一貫教育により、一学年定員 200 名であるのに対し、昭和の

末年頃は中学校の定員が約 100 名、高校からの入学定員が 200 から 250 名で、一学年の合計は 350 名程度となり、生徒数の減少はそのまま入会金収入の減少となり、従前に比べほぼ半減して居ります。

一般会員からの年度会費の納入は、平年は 1500 名程度をこれまで維持してきたもののここ最近では 1300 名以下になって居ります。なお、一般会員からの会費



は5年毎に名簿発行した際には会費納入者に名簿を提供していただきましたので、その年度に限り100ないし150名ほど会費納入者が増加しておりました。しかし、ご承知のように個人情報保護法の制定以降、本会におきましても名簿管理の適正化に向け検討を重ね、名簿発行を平成22年以降見合わせていることから、今後はこのような会費納入者の一時的な増加すら望めない状況になっています。

一方、事業経費につきましては、年1回の総会・懇親会の経費、年2回発行する「独協通信」の印刷、配送費及び幹事会などの会議費と名簿管理に関わる経費をはじめとする事務局経費であります。事業経費の節約、効率化はこれまでも適宜行ってきました。特にここ数年は「独協通信」の印刷、配送費の見直しを進め、一時の半分程度にすることが出来ています。

そして今後とも経費の削減のための方策もいくつか検討が進められています。たとえば、「独協通信」の印刷・配送を削減する方法として獨協同窓会のホームページの活用も検討しております。もちろん印刷媒体での提供が基本でありますし、印刷物の配送により同窓生の動静の確認も出来るなど、捨てがたい効用もあることから検討を重ねて居ります。

事業費の見直しもこのように限界に近づいておりますので、収入構造の改善を目指し、二点ほど改革を進めて居ります。

第一点は、卒業生からの会費前納制度です。これは、卒業生の多くが進学することから、卒業後4年間は回避の納入が困難であろうと言うことで、卒業生のご父兄にはご負担をかけるものの4年分の会費を半額前納してもらうこととしました。この春の卒業生からこの制度をお願いしたところ約7割の卒業生から協力いただき、収入構造の改善につなげられるものと考えて居ります。

第二点目としては、会員からの寄付を積極的に求めることとしました。これは会費とは別に経済的に余裕がある方々からのご寄付や、同期会、クラス会などの開催時の余剰金などを同窓会にご寄付頂くなどして、同窓会活動にも寄付の文化を根付かせていこうと言うことです。これまでも同窓会懇親会におきましては、「smile box」（寄付金受付箱）を会場で巡回し、寄付をお願いしているところですが、毎年多くの寄付が寄せられて居ります。

このように、様々な状況の変化の中、浅野会長をはじめとする執行部も鋭意努力して居ります。このことを会員の皆様方にもご理解いただき、会の運営のためのご支援を賜りたくお願いする次第です。

また、会の運営におきましても会員の皆様方の声を反映し、お知恵を拝借しながら、有意義な同窓会としていきたいと考えています。会員各位におかれましては、直接会の運営に関わって頂ける方を多数求めて居ります。

現在の執行部一覧

会 長	浅 野 一	(昭和42年卒)
副 会 長	竹 内 文 生	(昭和46年卒)
幹 事 長	木 原 正 義	(昭和47年卒)
副 幹 事 長	森 上 克 彦	(昭和47年卒)
総 務 委 員 長	新 井 雅 安	(昭和46年卒)
会 計	谷 口 有 三	(昭和53年卒)
会 計	神 谷 善 弘	(昭和57年卒)
広 報 委 員 長	竹 内 文 生	(昭和46年卒)
広 報 副 委 員 長	沖 山 秀 司	(昭和49年卒)
監 事	黒 沼 昭 夫	(昭和20年卒)
監 事	中 村 照 美	(昭和41年卒)

目 白 だ よ り

女性教員の増加について

副教頭・進路指導部長 松 本 麻里子

今年度より、副教頭・進路指導部長（兼務）を拝命いたしました、松本と申します。昨年、130周年を迎えた伝統ある学校での重責に、緊張した日々を送っています。どうぞよろしくお願いいたします。

今回、同窓会の方より次のテーマで原稿を、と依頼されました。一つは女性教員の増加、一つは今春の大学入試の結果についてです。

女性教員の増加については、何を書けばよいのか、非常に頭を悩ませました。同窓生によっては、「自分の担任の先生は女性で、教科でも多くの女性の先生に

習った」という世代もあれば、「自分の世代では学校内で女性といえば、保健室と図書館の先生しかいらっしゃらなかった」という方もおられると思います。おそらく、後者の世代の方が現在の獨協を訪れた際「女性の先生が増えたなあ」という感想と関心を持たれたところから、原稿のテーマとしての依頼をいただいたのではないかと、推察しています。

私自身、1996年（平成8年）に非常勤講師として、1998年（平成10年）から専任教員として勤めております。ちょうど現在の校舎が着工・竣工した時期に

あたります。旧校舎では、女子更衣室は化学準備室のカーテンで仕切られた一角に間借りしていた状態だったことを覚えています。すでにトイレは女性専用として使っているものがありましたが、それ以前は女性専用のトイレすらなく、女性職員の中には椿山荘まで用を足しに行った、などという話も聞いたことがあります。新校舎になってからは、女性教職員用の休憩室が作られ、物理的にも不自由はなくなりました。その頃にはすでに何人もの女性教員がいらして、生徒も教職員もそれを特に意識することなく学校生活を送っていたことを記憶しています。

その後、生徒をきめ細かく指導するための授業の分割や、進路に合わせた演習授業の充実などにより、専任・非常勤全体の教員数が増えていく流れの中で、自然に女性教員も増えていったといえるかと思います。

教員数の推移と女性教員

年度	専任(女性)	非常勤(女性)
2009	53(7)	47(15)
2010	55(7)	46(15)
2011	56(7)	43(13)
2012	56(8)	42(16)
2013	56(9)	43(14)
2014	56(9)	44(15)

2014 年度大学入試合格者数 ー国公立大学合格者増ー

今春卒業した学年から、カリキュラムが変更されました。高2で文理別のクラス分け、高3で志望大学コース別のクラスとなった初年度でした。近年の大学入試は理系人気が続き、文系に比べると大学入試は理系に厳しくなっている、と言われています。また医学部・医学科への入試も厳しさを増しています。その中で、現役生・過年度生ともに大いにがんばった結果です。

是非ご覧ください。

なお、近年私立大学では、「センター利用入試」「全学部入試」「個別入試」など入試方法が多様化しています。私立大学の中には、同じ大学から1人が多くの合格をいただく場合があります。そういったこともお含みの上、下の表をご覧ください。

平成 26 年度大学別合格者数 (推薦者も含め延べ人数・平成 26 年 4 月 30 日現在)

進路指導部

<国公立大学>					
東京大学	1	東邦大学	2	東邦大学	13
京都大学	1	獨協医科大学	5	早稲田大学	12
北海道大学	1	小計	18	慶應義塾大学	11
東京工業大学	1	<歯学部>		青山学院大学	11
東京農工大学	1	東京歯科大学	2	東洋大学	11
東京海洋大学	1	日本歯科大学	3	上智大学	10
千葉大学	2	小計	5	駒澤大学	9
埼玉大学	1	<薬学部>		芝浦工業大学	9
筑波大学	1	東京理科大学	2	帝京大学	9
電気通信大学	1	日本大学	1	東京電機大学	8
筑波技術大学	1	北里大学	1	東京農業大学	8
琉球大学	1	城西国際大学	1	成蹊大学	7
小計	13	帝京大学	1	東海大学	7
<文科省所管以外>		帝京平成大学	1	武蔵大学	7
職業能力開発総合大学校	1	東邦大学	2	成城大学	6
防衛大学校	2	星薬科大学	2	北里大学	6
小計	3	明治薬科大学	3	東京都市大学	6
<併設校>	合計	小計	14	文教大学	6
獨協大学	8	<私立大学>		大東文化大学	5
獨協医科大学	5	千葉工業大学	93	玉川大学	5
小計	13	日本大学	33	東京工科大学	5
<医学部医学科>		専修大学	25	日本獣医生命科学大学	5
日本大学	1	明治大学	24	麻布大学	4
北里大学	1	立教大学	21	神奈川大学	4
埼玉医科大学	4	東京理科大学	19	関東学院大学	4
聖マリアンナ医科大学	2	中央大学	18	國學院大学	4
帝京大学	1	法政大学	17	国土館大学	4
東京医科大学	2	明治学院大学	17	多摩美術大学	4
		学習院大学	13	武蔵野美術大学	4
				亜細亜大学	3
				工学院大学	3
				拓殖大学	3
				東京経済大学	3
				明治薬科大学	3
				立命館アジア太平洋大学	3
				桜美林大学	2
				国立音楽大学	2
				城西大学	2
				尚美学園大学	2
				大正大学	2
				多摩大学	2
				帝京平成大学	2
				東京工芸大学	2
				星薬科大学	2
				明星大学	2
				同志社大学	1
				産業能率大学	1
				順天堂大学	1
				帝京科学大学	1
				東京医科大学	1
				東京国際大学	1
				東京造形大学	1
				東洋学園大学	1
				名古屋商科大学	1
				北海道医療大学	1
				目白大学	1
				流通経済大学	1
				麗澤大学	1
				小計	535
				合計	601

◆ 210 名の新入生 獨協中学校入学式

平成 26 年度の獨協中学校入学式が 4 月 6 日に行われた。渡邊和雄校長は式辞の中で「社会のリーダーとなるために基本ともなるべき、素養、価値観、行動原理を獨協での六年間で身に付けてもらいたいと思います。その折に基本となるのは「支える」という考え方です。支えるというのは、自分に都合のよいようにふるまうのではなく、相手のことを考えて行動するということです。所属する共同体のためになるように行動するということです。それは個性を潰すことでも自由を奪われることでもありません。この世の中は自分一人だけが幸せになろうとしても実現できないように作られています。」と呼びかけた。新入生を代表して清水暁陽君の「いろいろな事を経験し、広い視野を持ち、社会に貢献できる人になる力をつけられるように努力することを約束します。」という希望あふれる宣誓があった。

◆ 191 名を送り出す 獨協高等学校卒業式
第 66 回獨協高等学校卒業証書授与式が 3 月 10 日、

寺野彰理事長、ドイツ連邦共和国大使館文化部フランスカ・ノイゲーバウワー様、黒田多美子獨協大学外国語学部長、永井伸一前校長、新井嘉昭後援会副会長、鈴木一郎 P T A 会長、竹内文生同窓会副会長らの臨席のもと 100 周年記念体育館で行われた。

渡邊和雄校長は式辞の中で「皆さん一人一人、誰でも皆さんを必要とする場所があります。その必要とされていることに応えるのが皆さんの使命です。まずは、必要とされる場所を探してください。作ってください。そして、そこで自分にできることは何か、自分の為すべきことは何かを自分に問うてください。自分に求められているのは何かを感じ取ってください。そうしたところでできる関係は支え支えられる関係になっているはずです。」と語りかけた。

浅野会長からは卒業生全員に卒業記念品として卓上時計が贈られた。



◆ 獨協中学・高等学校人事

退任 馬 越 右左司（英語科）
新任 間 嶋 剛（国語科）

平成26年度 総会・懇親会のご案内

平成 26 年度の獨協同窓会総会および懇親会を下記のとおり開催いたします。同窓生の皆様の多数のご参加をお願いします。浅野会長のもと 3 年目に入りますが、130 周年に際した学校への奨学金基金の積み増しのための寄付を 2 年間にわたり毎年 500 万円ずつ行っておりますが、同窓会の一般事業積立金が減少し、会の財政問題が大きな課題となっております。経費の削減の努力、会費納入の強化、新卒業生の会費前納制導入など多くの課題があります。多くの会員の方々のお知恵を拝借しながら、健全な会運営を進めていきたいと考えております。

また、総会後には、例年通り椿山荘にて懇親会があります。恩賜の先生方や旧友との再会の場として懇親を深めていただければと考えております。

なお、本年度の総会は例年に比べ 30 分ほど早く開会します。お時間をお間違えなきようお願いいたします。

平成26年度 総会・懇親会

開催日時：平成 26 年 6 月 21 日（土）

場所・時間：総 会 会 場：獨協中学・高等学校 小講堂

受付開始：午後 4 時

開 会：午後 4 時 30 分

懇親会 会 場：椿山荘・ギャラクシー

受付開始：午後 6 時

開 会：午後 6 時 30 分

懇 親 会 費：（会場受付でお支払い下さい。）

昭和 27 年以前の卒業生 …………… 無料

昭和 28 年～平成 20 年の卒業生 … 5,000 円

平成 21 年～平成 25 年の卒業生 … 2,000 円

平成 26 年の卒業生 …………… 無料

平成26年度 通常総会 議案書

開催日：平成26年年6月21日(土)

《 総 会 付 議 事 項 》

第1号議案：平成25年度事業報告の件

第2号議案：平成25年度収支決算の件

第3号議案：平成26年度事業計画案の件

第4号議案：平成26年度収支予算案の件

第1号議案：平成25年度事業報告の件

【概況】

2年目を迎えた浅野一会長のもと、平成25年度事業計画に則り事業を施行した。獨協学園創立130周年記念事業が椿山荘で開催され、記念式典に多くの同窓生が参加し盛大に挙行された。事業の一環として、獨協中高より奨学金基金の増資を目的とする1000万円の寄付要請があり、この内500万円の寄付（残り500万円は次年度）を行った。同窓会では会員に財務拡充のための寄付を募り、スマイルボックスと合わせ230万円を越える支援が集まった。

新たな事業として「第一回キャリア教育講演会」を行い、昭和41年卒の現JTB取締役社長田川博己氏をお招きし、中3、高1、高2の生徒と教職員に講演していただき、大変好評を博した。さらに新事業として同窓会の活性化に向けた「ALL 獨協構想」が活発に議論された。

＜各種委員会活動＞

①総務委員会

合計7回開催され、全体的な会務および会計について検討を行った。

②広報委員会

合計2回開催され、独協通信、ホームページ、獨協祭の催し等について議論した。

③常任幹事会

合計2回開催され、総務委員会で検討された課題について、常任幹事の意見を求めた。

④幹事会

春、秋の2回、例年通り市ヶ谷の私学会館で行い、重要事項の議決を行った。

⑤会計検討会および会計処理ソフト講習会

＜広報＞

広報活動として、25年度は独協通信80号及び81号を発行した。また、例年通り獨協祭に参加し、品川弥次郎をテーマに展示を行った。ホームページについては、その更新体制の不備により円滑に内容の更新が出来ていなかったが、年度後半にその体制整備について関係者間の調整を図り26年度以降随時更新できるものと考えている。

＜名簿管理および事務局の管理業務＞

会員情報については、個人情報守秘義務を遵守し、会員名簿とともに同窓会事務局内に厳重に管理されている。新規会員情報や既卒の会員の情報更新については、速やかに個人データ管理システムへ入力処理した。

第2号議案：平成25年度収支決算の件

本来、同窓会運営資金の柱である会費収入の漸減がいまだに続き、1297名（前年より13名減）まで落ち込みました。このため増収策として新卒業生に対し会費4年分の前納制度（半額に優遇）および、財務拡充寄付制度を導入したことで両者合計346万5000円ほどの新たな財源確保ができました。この結果収入の部については対前年で約20%の増加を、いっぽう、併せてさらなるコスト削減を実施し関係各位のご尽力により対前年約9%支出を減らすことができました。創立130周年にあたり母校より1000万円の奨学金基金の寄付要請がありましたが、同窓会として2事業年に分割、半額の500万円を創立記念日に寄付させて頂くことができましたことをご報告申し上げます。

平成25年4月1日より平成26年3月31日までの①収支決算 ②期末時点における貸借対照表 ③収支差額金処分案 以上につき承認をお願い致します。（会計資料参照）

第 3 号議案：平成 26 年度事業計画の件

【概況】

依然として会費の納入率が低く、財政の健全化に向けて努力する。従来行われていた事業の他に、獨協同窓会の更なる活性化のための新たな事業を展開する。

昨年から始まり大変好評だった生徒向けの「キャリア教育講演会」を、Jリーグマッチコミッショナーの福島広樹氏（昭和 41 年卒）を講師に迎え開催する。さらに、会員を対象にした講演会を新たに企画する。

「ALL 獨協構想」については、獨協学園すべての同窓会と共同で事業を進め、とりあえずは会員が気軽に利用できるお店を紹介することから始め、様々な領域で獨協人の輪を広げていくことを目的に活動する。

①会員のために何ができるか ②学校、生徒のために何ができるか。以上の課題をさらに検討し、優れた組織と適切な人材を集めてこれにあたる。

<広報>

26 年度の独協通信は、82 号、83 号の発行を予定し、すでに 82 号については発行した。獨協祭への参加は、従来からの獨協学園の校長の業績としての長井長義先生の紹介に加え、獨協中学・高等学校のサークルの OB 会の活動の紹介や各種職域の同窓会などの紹介を計画している。ホームページについては、随時更新の体制が整ったことから、同窓会の会報に匹敵する媒体となることが期待できるものとする。

第 4 号議案：平成 26 年度収支予算案の件

<予算>

母校のさらなる発展を力強く応援できる組織体としての同窓会を実現させるために、充実した活動と併せて財政基盤を強化して参ります。そのために、引き続き収支差額金を確保できる予算作りと行動を励行し、毎年基本財産を厚くして参ります。

■増収策：

- ① 同窓会費について、その目的、内容等を紙媒体だけでなく同窓会幹事によるコミュニケーションで理解度を高めることで、納入促進につなげたいと思います。
- ② これまでの会費の“振り込みを待つ”という受動的な会費徴収のありかたを見直し、未納会員に対して積極的な働きかけを行います。
- ③ 昨年度スタートした「財務拡充寄付」を継続し、芽生えてきた寄付文化を定着化させるべく検討を行っていきます。
- ④ 同窓会報へ有料広告掲載の検討を続けます。

改善した同窓会収支状況

収入の部 決算額

	科 目	25年度	24年度		増減(%)
1	入 会 金	6,480,000	6,300,000	180,000	
2	(1)一般会費	6,485,000	6,550,000	-65,000	
	(2)新卒会費	1,290,000	0	1,290,000	
3	(1)財務拡充寄付	2,175,000	0	2,175,000	
	(2)スマイルボックス	48,004	181,565	-133,561	
4	事業収入（懇親会、協賛金）	450,600	372,700	77,900	
5	資産運用収入	120,917	164,635	-43,718	
	合 計	17,049,521	13,568,900	3,480,621	20.41%

改善した同窓会収支状況

支出の部 決算額

	科 目	25年度	24年度		増減(%)
1	事業費	8,681,405	9,509,331	-827,926	-8.71%
	(1)総会費	1,862,887	2,044,706	-181,819	
	(2)会報費	2,423,715	2,590,000	-166,285	
	(3)事業通信費	2,797,660	2,779,656	18,004	
	(4)OB会補助金	250,000	250,000	0	
	(5)学校補助費	657,050	899,125	-242,075	
	(7)ホームページ費	120,000	120,000	0	
	(8)獨協祭参加費	398,564	607,401	-208,837	
	(9)その他事業費	0	0	0	
	(10)慶弔費	73,929	177,157	-103,228	
	(11)渉外費	97,600	41,286	56,314	
	(11)名簿作成費	0	0	0	
2	事務費	2,704,777	2,981,250	-276,473	-9.27%
	(1)事務運営費	698,489	778,768	-80,279	
	(2)管理費	947,000	996,000	-49,000	
	(3)会議費	377,513	370,313	7,200	
	(4)旅費交通費	318,400	328,800	-10,400	
	(5)名簿管理費	357,000	420,000	-63,000	
	(6)雑費	6,375	87,369	-80,994	
3	予備費	18,900	0	18,900	
	小計	11,405,082	12,490,581	-1,085,499	-8.69%

注) 奨学金基金への寄付500万円はこの表の中に含まれません。

獨協同窓会 平成25年度決算 および 平成26(2014)年度 収支予算書(案)

平成26年4月1日から平成27年3月31日まで

斜体は新設項目案

収入の部

	科 目	26年度予算額 (A)	25年度決算額	25年度予算額 (B)	(A)-(B)	摘 要
1	入 会 金	6,300,000	6,480,000	6,300,000	0	30,000円×210名
2A	一般会費	6,500,000	6,485,000	7,000,000	-500,000	5,000円×1300件、
2B	新卒会費	1,400,000	1,290,000	0	1,400,000	新卒生140名
3	寄付金	1,040,000	2,223,004	200,000	840,000	
	財務拡充寄付	1,000,000	2,175,000	0	1,000,000	
	スマイルボックス	40,000	48,004	200,000	-160,000	
4	事業収入	420,000	450,600	330,000	90,000	
	懇親会会費	420,000	421,000	330,000	90,000	
	協賛金		29,600		0	
5	資産運用収入	50,000	120,917	50,000	0	利息等
6	名簿積立金より繰入	0	0	0	0	
7	一般事業積立金より繰入	3,000,000	3,000,000	3,000,000	0	
8	雑収入	0	0	10,000	-10,000	
	合 計	18,710,000	20,049,521	16,890,000	1,820,000	

獨協同窓会 平成25年度決算 および 平成26(2014)年度 収支予算書(案)

平成26年4月1日から平成27年3月31日まで

斜体は新設項目案

支出の部

	科 目	26年度予算額 (A)	25年度決算額	25年度予算額 (B)	(A)-(B)	摘 要
1	事業費	13,420,000	13,681,405	13,750,000	-330,000	
	(1)総会費	1,600,000	1,862,887	2,030,000	-430,000	総会、懇親会費
	議案書印刷	0	259,350	180,000	-180,000	
	懇親会費	1,600,000	1,603,537	1,850,000	-250,000	
	(2)会報費	2,100,000	2,423,715	1,900,000	200,000	80、81号制作費
	(3)事業通信費	2,800,000	2,797,660	2,800,000	0	会報発送費等
	(4)OB会補助金	250,000	250,000	250,000	0	
	(5)学校補助費	700,000	657,050	700,000	0	
	卒業生記念品費	300,000	277,050	300,000	0	
	図書費	200,000	200,000	200,000	0	
	学友会補助	200,000	180,000	200,000	0	
					0	
	(6)奨学金基金への寄付	5,000,000	5,000,000	5,000,000	0	
	(7)ホームページ費	120,000	120,000	120,000	0	
	(8)獨協祭参加費	400,000	398,564	400,000	0	
	展示物制作費、他	230,000	170,564	100,000	130,000	
	小冊子作成費	170,000	228,000	300,000	-130,000	
	(9)その他事業費	0	0	200,000	-200,000	
	(10)慶弔費	200,000	73,929	200,000	0	
	(11)渉外費	250,000	97,600	150,000	100,000	諸会費等 (注)
	(12)名簿作成費	0	0		0	
2	事務費	2,840,000	2,704,777	3,020,000	-180,000	
	(1)事務運営費	700,000	698,489	780,000	-80,000	事務通信費、振込手数料等
	(2)管理費	1,000,000	947,000	1,000,000	0	人件費、家賃
	(3)会議費	400,000	377,513	400,000	0	
	(4)旅費交通費	350,000	318,400	400,000	-50,000	
	(5)名簿管理費	340,000	357,000	360,000	-20,000	
	(6)雑費	50,000	6,375	80,000	-30,000	
3	予備費	50,000	18,900	80,000	-30,000	
	小計	16,310,000	16,405,082	16,850,000	-540,000	
4	収支差額金	2,400,000	3,644,439	40,000	2,360,000	
	合 計	18,710,000	20,049,521	16,890,000	1,820,000	

(注) 東京都私立中高父母の会中央連合会 第4支部幹事校として

2014 5 7

貸借対照表

平成26年3月31日現在 (単位：円)			
		(基本財産)	
利付国債	7,000,000	基本金	24,000,000
定期預金	19,000,000	(運用財産)	
現預金	20,751,993	事業積立金	19,107,554
		(1)名簿積立金	2,000,000
		(2)一般事業積立金	17,107,554
		収支差額金	3,644,439
	46,751,993		46,751,993

※ 定期預金は4行に預託。

収支差額金処分案
次のとおり、全額積立金に繰入のこととした
(単位：円)

基本金	0
名簿積立金	0
一般事業積立金	3,644,439
計	3,644,439

募金実績報告・募金者名一覧

平成 25 年の獨協学園創立 130 周年に際し、獨協同窓会も中学・高等学校の記念事業の一環として在校生向けの奨学金基金に 1000 万円を寄付することになった。会の財政状況から、2 年間の分割で年度ごとに 500 万円の寄付をすることを学校と同窓会の間で申し合わせた（独協通信 81 号に既報）。一方で、ここ数年会費の納入が毎年のように減少していることで、同窓会としても財政状態の基盤の拡充が喫緊の課題となってきた。浅野会長はこうした状況下で、

同窓会の運営にあたっては会員各位の寄付の機運の醸成も大切であるとの考えから、寄付のお願いを昨年度から進めている。その結果昨年末までに多くの寄付が寄せられてきている（独協通信 81 号に既報）。本年になっても多くの寄付が寄せられており、会費の納入ももちろんではあるが、是非とも寄付をしていただける諸兄におかれましては、宜しく願い申し上げます。

なお、昨年末以降に寄付をしていただいた方のお名前は下記の表のとおりです。

募 金 者 名 一 覧（『独協通信 81 号』以降）

（順不同・敬称略）

菊池 敏之	（昭和 13）	鈴木 清太郎	（昭和 20）	宮崎 輝雄	（昭和 42）
里村 淳	（昭和 41）	小西 泉随	（昭和 36）	大橋 英紀	（昭和 52）
齋伯 哲	（昭和 20（4年））	助川 卓行	（昭和 43）	稲葉 由樹	（昭和 23）
菊池 敏之	（昭和 13）	里見 治	（昭和 35）	吉松 栄彦	（昭和 59）
佐藤 和美	（昭和 41）	木村 聰	（昭和 37）	益井 邦夫	（昭和 37）
入野 満哉	（昭和 51）	菅谷 敦人	（昭和 58）	大野 秀彦	（昭和 39）
金 有一	（昭和 35）	山崎 喜貴	（平成 22）	新城 俊男	（昭和 38）
高田 正道	（昭和 55）	和田 雄幸	（昭和 25）	中井 暲典	（昭和 20）
山田 辰樹	（平成 25）	平山 敏雄	（昭和 20）	斉藤 勝一	（昭和 50）
神嶋 禮次郎	（昭和 18）	行木 太郎	（平成 01）	齋藤 謙治	（昭和 19）
上杉 栄作	（昭和 58）	梶田 利文	（平成 01）	小川 秀明	（昭和 32）
山田 治樹	（昭和 55）	久保田 伊哉	（平成 7）	村上 順	（昭和 43）
峯島 重雄	（昭和 34）	伊藤 英一	（昭和 59）	太田 孝一郎	（昭和 27）
上田 善彦	（昭和 47）	鈴木 一成	（昭和 58）	関井 秀明	（平成 08）
竹内 正和	（昭和 18）	川久保 洋	（昭和 53）	塩島 功一郎	（昭和 59）
竹内 和彦	（昭和 62）	川久保 輝	（平成 23）	小杉 喬志	（昭和 41）
津田 恭彦	（昭和 59）	田中 哲也	（昭和 50）	石井 一平	（昭和 42）
井原 泰樹	（昭和 43）	森 有樹秀	（昭和 55）	村松 孝洋	（平成 19）
田中 宏	（昭和 20）	伊藤 公一	（昭和 58）	浅野 一	（昭和 42）
小倉 弘章	（昭和 53）	矢野 剛司	（昭和 62）	原田 昌彦	（昭和 23）
有川 寛	（昭和 17）	添野 文雄	（昭和 47）	山口 典久	（昭和 56）
宇都見 忠	（昭和 37）	遠山 洋一	（昭和 53）	桶田 修廣	（昭和 35）
内田 元雄	（昭和 19）	有我 昭蔵	（昭和 34）	田中 建吾	（昭和 18）
棚木 光雄	（昭和 26）	源 堅一郎	（平成 10）		
秋元 雅之	（昭和 48）	本田 光芳	（昭和 25 大豆会）		

新卒者からの会費前納制の導入と実績

この春高等学校を卒業した新会員の方々から会費前納制を実施いたしました。会費前納制とは、高校を卒業した直後多くの卒業生が大学などに進学することから本人が会費を納入することは容易なことではないことから、卒業生のご父兄の負担ともなりますが、4 年分の会費の半額（1 万円）をお願いする制度です。もちろん、大学卒業後は会費を納めていただけることと考えておりますが、こうした対応で、同窓会の財政

の改善を進めていきたいと考えております。

このような考え方にに基づき平成 25 年度末には卒業生のご父兄から 129 万円の前納がされました。紙面をお借りし、関係各位に同窓会として御礼申し上げます。

こうしたことで、会の財政状況が健全化されることを期待し、今後ともこの制度を継続したいと考えております。関係各位のご理解を重ねてお願い申し上げます。

昭和 19 年卒 獨協五三会

平成 25 年 10 月 30 日、例年にならって東中野の日本閣で行いました。

今回は会員 10 名尾島君の付き添い兼、会の運営にご協力の紅一点、宝塚出身の小乙女幸さんを加え出席者は 11 名。根元君の音頭で乾杯、幸さんの歌う「すみれの花」はやんやの喝采を浴び、華やかな開会となりました。

昨年欠席した植田君も、元気で温泉博士の貫禄を示し、幸さんに花束を贈呈し悦に入るといふ光栄に浴しました。また外交官としてヨーロッパで要職を歴任した田村君は、菩提樹の解説と歌唱指導を試み「ドイツ語は忘れた」とか「この次はハトポッポにしてくれ」などとけしからぬボヤキの声も、われ関せずと聞き流し、終始にこやかに、身ぶりよろしく蒨蓄とグラスを傾けました。

工場経営の南君が、珍しいカレンダー付きスナップ写真枠を作ってくれることになり、そのほかいろいろな思い出話にも花が咲き、笑いの洪水の中で、有益で愉快なひと時を過ごすことができました。

獨協同窓会のご理解とご支援を感謝いたします。
(万年幹事 原 和夫・記)



昭和 34 年卒 ドイツ語クラス同級会

2014 年 3 月 30 日、霞が関ビル 35 階の東海大学校友会館に於いて 34 年卒ドイツ語クラス 1 組の同級会を開催しました。担任恩師：奥貫先生と社会科の新宮先生をお迎えし総勢 20 名 + 3 名の旧友が集まりました。

桜の開花を楽しみに日取りを決めたのですが、生憎の暴風雨をものともせず多数の老健男児が久々に満面の笑顔を揃えました。

高橋君の司会により日帰りで駆けつけて下さった奥貫先生の懐かしい名口調に聞き入り、新宮先生による獨協の歴史の話に 60 年近く前の獨協時代を懐かしく、時間を短縮して思い出しました。

引き続いて級友全員が獨協卒業後 73 歳までの自己

歴史を語り、都合で出席できなかった級友の近況にも聞き入り、最後に獨協校歌をハーモニカの伴奏で 3 番まで高らかに歌ってお開きとなりました。

(赤松 邦彦・記)



昭和 41 年卒 独協中学3組クラス会

平成 25 年 11 月 16 日（土）に六本木「バージンカフェ」で独協中学 3 組のクラス会を開催しました。中学卒業から 50 年の記念の年なので多くの参加を期待していましたが、残念ながら昨年よりも少ない 15 名（横山先生と他クラスからの参加 2 名を含む）となりました。

「バージンカフェ」は成川君が経営する店でいろいろとサービスをしてもらい、珍しい鳩の料理などおいしいものばかりでした。また、出張で出席できなかった鶴久森君からは関係する会社（スリーボンド貿易）の高級なイタリアワインの差し入れもありました。おいしい料理、酒に加えて成川君の知り合いの若い女性の参加もあり、大いに盛り上がりあつという間の 3 時間でした。

二次会はカラオケに場所を移し、中学時代を懐かしみドイツ語で「野ばら」を皆で歌ったり（意外と覚えているものです）して楽しんだ後、来年の再会を期して散会となりました。

参加者は横山先生、行徳、小林（宏）、佐伯、三本木、斎藤（憲）、中村（修）、中村（直）、成川、中沢、谷山、水野、渡辺（以上 12 名が 3 組）、三輪、渡部

(渡辺 岳・記)



昭 47 年卒 3 年 4 組還暦記念クラス会

数年ごとの恒例の会ですが、今回は還暦という大きな節目を記念するクラス会として、2013 年 11 月 23 日に帝国ホテル「インペリアルラウンジ アクア」にて執り行いました。当日はクラス主管をされた高瀬先生ご臨席のもと、4 名の物故者への黙祷ではじまり、先生、各自の近況報告と続きました。遠路、新潟や長野からの参加者たち、卒業以来初の参加者含め、21 名のクラスメイトの参集を得て、当時とは陰も形も違う姿のクラスメイトに面喰らいながらも、懐かしくもなごやかに楽しいひとときを過ごしました。孫ができた A 君、バツ 3 の B 君、仕事よりスポーツが忙しい Dr. C 君、米国籍になった Dr. D 君、定年退職しバイト中の E 君、会社経営で忙しい F 君、介護と仕事を両立する G 君、ガンと向き合う H 君など、歩む道はそれぞれですが、会は 3 次会まで続き、人生の折り返しを祝う有意義な日として大いに盛り上がりました。年を重ねつつ再会を期して今後も定期的にクラス会を続ける予定です。

(根津 義博・記)



昭和 48 年卒 獨協48会

獨協 48（よんぱち）会は毎年 10 月に 1 組から 6 組まで合同で開催している同期会です。毎年こうして合同で行うようになってから、既に 20 年以上は経っているかと思います。各組から 1 名が幹事となり数回の幹事会を重ね、会場の選定や案内状の発送などを手分けして行っています。また幹事とは別に事務局長として多田利幸君には、長年に渡り名簿管理や印刷等でお骨折りを頂き、会計として椿敬君には会のお金の管理をお任せしています。

毎年の開催については幹事会でも賛否両論ありましたが、こうして続けていると今回が初めて参加という人などもあり、これからも久し振りに再会できる学友が一人でも増えることを願い続けていきたいと思っています。

平成 25 年は 10 月 12 日に NHK の職員である佐藤彰君のお手配により、表参道にある「NHK 青山荘」

にて行うことができました。参加者は約 40 名弱、毎年ご参加頂いております柏葉洋先生と保健体育でお世話になりました吉田拓先生にもご参加頂き、楽しい時間を過ごすことができました。両先生方も大変お元気で、それぞれに近況報告やご自分の趣味などのお話をしてくださり、我々にも大いに刺激となりました。

平成 26 年は還暦を迎えることになりますので、この会をより一層盛り上げて開催したいと次期幹事一同、張り切っていますので同期の皆様どうぞ次回も奮ってご参加ください。

(林 清方・記)



平成 18 年卒 平成18年同期会

2013 年 9 月 28 日に京王プラザホテルにおいて平成 18 年卒業生全クラス合同同窓会を執り行いました。今回の集まりは 2 回目の集まりでしたが、予想以上に多くの方に参加していただいていたありがたいと思っています。久々に会う先生方や、同期たちと近況を報告し合ったり、学生当時の懐かしい思い出に花を咲かせたりすることができた良い会になったのではないかと思います。大半が 26 歳という年齢で、仕事に励んでいる者、結婚して新たな家庭を築いている者、資格を目指して勉学に励んでいる者等様々な境遇にある者たちがいました。私は、様々な境遇の者たちと一堂に会して対等に話をできるのは、中学・高校同窓会の醍醐味であると考えており、このような会の幹事をさせていただいていることを光栄に思います。次回の開催は 30 歳になる頃を予定していますが、さらにステップアップした同期達に会えることを心待ちにしています。

(本田・記)



平成 24 年卒 成人を祝う会

1 月 13 日成人の日に実行委員会の会田・高杉・武田・新井の呼びかけのもと平成 24 年度卒業生で集まり成人を祝う会を開催しました。

卒業生は 108 人、特別ゲストとして卒業年の学年会の先生方も招待させていただき、総勢 114 人の大イベントになりました。

卒業以来の再会であったため、たばこを吸うようになった人たちがいたりして時間の流れや生活の変化を改めて認識したが、話すときみな当時と変わりにく明るく元気な獨協生で安心しました。

成人と言う大きな節目を一番好きで信頼できる人たちと共有できたことが何よりの幸せでした。参加者たちも同じように思ってくれたらうれしいです。

(會田 将吾・記)



平成24年松本歯科大学獨協会

本年の獨協会の開催は 例年通り神楽坂のかぐら坂志満金にて、平成 25 年 6 月 22 日（土）に開催致しました。当日は昨年同様に 6 月の梅雨時の中、天候に恵まれ、幹事一同ほっといたした次第です。



今回は今回の松本歯科大学獨協会はここ数回の会では 1 番少ない参加人数となりましたが、会長の真砂功先生（昭和 47 年高校卒）をはじめ、松本歯科大学卒 2 期から 22 期卒業 10 名の先生方にお集まりいただ

いて大変な盛り上がりでした。本会は 28 名の松本歯科大卒の獨協高校 OB にて構成される、比較的小さな会です。そのこじんまりした会の規模が、適当でゆるく居心地の良い感じとなっております。

2 次会は 神楽坂裏街軽子坂のバーにて、ちょっと昔の？高校時代の出来事などを肴に深夜まで大変な盛り上がりその後、おのの先生方は それぞれの街へ？店へ？家へ？と行くことと相なりました。

(昭和 53 年卒 橋口・記)

剣道部OB会 獨協戸隠会

平成 25 年 12 月 23 日、稽古納にあわせて O B 懇親会を開きました。稽古納では中学生によるトーナメント戦が行われ、締め稽古では学生、O B 全員が参加し竹刀を交えました。久しぶりに防具をつけて汗を流し、稽古後の爽快感を懐かしく味わった O B もいたことでしょう。総勢 20 名を超え、稽古後には学生と O B の親睦会も開き、稽古納は大変盛り上がりしました。稽古納まで参加頂いた O B は、佐久間 (S50)、宮川 (H21)、新妻 (H22)、清水 (H24)、石井 (H25)、松延 (H25)、〈敬称略 (卒業年)〉以上です。O B 懇親会は目白通りの鬼子母神前「入り江」にて、斎藤師範、顧問の鈴木先生をお招きし、山口 (S46)、山崎 (S46)、藤井 (S47)、木屋 (S54)、柳川 (H14)、山本 (H19)、北原 (H22)、名取 (H24)、大宅 (S54) 〈敬称略〉が参加しました。宴会では山口会長の挨拶をはじめとして、師範、鈴木先生から剣道部の現況をお話頂きました。今回幅広い年代の O B が楽しく語り合うことができました。現在、剣道部員数は中学高校生合わせて約 10 名で、団体戦を組めないほど少ないですが、師範、顧問の先生方の熱心なご指導とそれに応えるように部員たちはすごく頑張っております。O B 会として何ができるのか。稽古や行事に積極的に参加し、微力ではありますが剣道部を盛り立てていくことを確認いたしました。

(昭和 54 年卒 大宅・記)



クラス会などの開催予告・案内 「昭和 39 年卒 50 周年記念の集い」のお知らせ

昭和 39 年卒、獨協大学創立の年、東京オリンピックの年、我々 200 数十名が「天野獨協」を巣立った。以来半世紀が経ち、思うはやはり「目白の獨協」であり、お世話になった諸先生方への感謝の念である。今年、卒後 50 年を機に、又再び目白で再会を果たしたいものです。6～7 年前からこの会のきっかけづくりをしてくれた大塚正行君、田村宏君らの働きかけで、今回以下の内容で、恩師の先生方をお迎えし「50 周年の集い」を開催することになりました。

つきましては、今までも、これからも「獨協」を支えてくださっているご家族の皆様と共に、是非ともご参加ください。

昔話もよし、これからの話もまた善し、校歌を歌い「獨協」の旗の下、楽しい集いにしたいと思います。

「昭和 39 年卒 50 周年記念の集い」

日 時 平成 26 年 6 月 15 日（火）13 時～

会 場 椿山荘タワー棟 6 階 「さくら」の間

03-3943-1111（代）

参加費 8,000 円（当日受付にて）

幹 事	大塚 正行	090-3206-2531
	加藤 知樹	090-3094-5155
	高田 忠行	090-9300-9468
	田村 宏	090-6706-7482
	林 謙治	090-2222-4168
	堀内 正敏	090-7182-3636
	柳原 克忠	070-5074-3999

菅野博文君のデュオ・リサイタル

平成 13 年 10 月 30 日、四ツ谷の紀尾井ホールで、クラスメート、昭和 38 年中学卒 菅野博文君のリサイタルを聴いて来ました。

中学 1 年のとき、学校の音楽室で菅野君がチェロを弾いてくれたときのことをいまでもはっきり憶えています。このとき彼がチェロに取組んでいることを初めて知ったのと同時に、目の前で彼がゆったりとチェロを弾くを見て、ものすごいカルチャーショックを受けました。

いつも私のうしろの席でいたずらばかりしているヤツと、目の前でチェロを弾いている者が同じ人物だとは、まったく信じられないことでした。だからなおさらのこと、そのとき弾いてくれたサンサーンスの「白鳥」は私の耳に残りました。それ以来、この曲がどこから聞こえてくると、いつも彼の弾いた音を思い出します。それはいまでも続いています。

今回、彼がコンサートを開くと聞いたとき、すぐに行きたいと思ったのは、サンサーンスの「白鳥」以外の曲を聴いてみたい、という思いからでした。

私はチェロの曲を聴いたことがないので、コンサートで彼が弾いた曲はどれも初めて聞くものばかりでした。曲はどれもテンポが早くて比較的にはげしいものが多かったのに、彼の左手はつねに軽いタッチで弦を

押さえているように思えました。彼が軽快に弓を動かすのを見つめながら私はずっと落ち着いていて心地よく聴くことができました。

コンサートのあとでレセプションに出ました。彼とはちょっと挨拶を交わしただけで、あとは一緒に行った友人とのミニクラス会になりました。でも会場を出て皆と別れ、ひとりになると、私の中に流れてきたのはやはり音楽室で聴いたサンサーンスの「白鳥」でした。

（中村昭美 記）



私の近況 卒業 ン十年

● 70 年前の昭和 19 年に卒業しました。私は独協通信を第 1 号からずっと保存しています。サイズが大きくなったり、いろいろ変わりました。たまにこれを繰ってみますと、あれこれ懐かしく昔を思い出します。独協通信は充実してきましたが、工夫して、何とか名簿

を発行して下さい。 < 佐藤 信行（昭 19 卒） >

● 夕方はスポーツジムで汗を流し、愛猫と穏やかな日々を過ごしています。お陰様で健康です。

< 塩崎 國夫（昭 19 卒） >

● 70 年前の懐かしいオンボロ校舎と軍国少年時代の

私の近況 卒業 10年

自分を想い起こすと万感胸に迫るものがあります。獨協よ永遠なれ。

＜永井 福助（昭 19 卒）＞

●電電公社退職後、電気の零細自営業を続ける一方、社交ダンス、ドイツリード、日本民謡、認知症相手のボランティア等々、今はピアノのお稽古が楽しみです。目白台の校舎が立派なのは驚きました。

＜原 和夫（昭 19 卒）＞

●2010 年脳梗塞で倒れ、現在歩行困難となり外出出来ません。

＜村山 和良（昭 19 卒）＞

●4 月に 79 歳、地域活動で多忙中。昭和 23 年 2 学期区立中より転校、29 年高卒、勉学スタートの遅れにより苦勞するも、中・高と卓球部に所属。先輩に恵まれ、獨協での豊かな体験に感謝。

＜足立 菊保（昭 29 卒）＞

●獨協通信 79 号の表紙に明治 35 年建設された校舎が写っていて、私の学生時代のことが色々と回想され懐かしかった。戦前は都内屈指の進学校が、私の入学した昭和 23 年頃は疲弊していた。この状況を見兼ねた天野貞祐先生は文部大臣を辞して校長になられた。中興の祖として、今日の獨協をつくりあげた。朝礼が復活した。全員に「学生に与える書」をくださった。私は今、平塚市で開業し頑張っています。

＜串田 良昌（昭 29 卒）＞

●「電気通信大学コミュニケーションミュージアム」の学術調査員や「船積前検査員」をしています。また、健康維持の為、豊島区水泳連盟の水泳教室を含め週 3 回位泳いだりしています。総会と椿山荘での懇親会には毎年出席しています。

＜桑嶋 陽一（昭 29 卒）＞

●母校荒廃時に入学し、天野先生救援直後に卒業。卒業式で諸君は可能性そのものとの教示を頂き早や 60 年。爾後、長男は大学卒、孫の一人は中学在学中と三代に亘り、青春の学舎とする御縁に恵まれ、感慨一入。

＜町野 宏祥（昭 29 卒）＞

●卒業から遥かに半世紀。高校時代は遠く恩讐の彼方にある。中学の受験英語をこじらせた私には整然と構築されたドイツ語は実に新鮮で魅力的だった。「登山道は一本ではない」。母校の与えてくれた深い思い出は敗者復活の人生訓である。

＜宇都宮 繁明（昭 39 卒）＞

●6 年前 1 学年 1 クラスの中学卒の同期会から始まり学年全体の同窓会へと広がり卒業 50 年目、本年多くの仲間に見える事を楽しみにしています。なお中学時代の悪友 7 人と毎月酒を飲んでいますが獨協通信を書いている今は 32 回の放射線治療に入っています。

＜大塚 直行（昭 39 卒）＞

●明るい陽射しの蒼空を“コーコー”と鳴き交わす白鳥の北帰行。母介護の日々は変わらないが、丹精の花咲き乱れる春は直ぐそこ。早くも卒後 50 年、年金生活に成りました。

＜久保田 稔（昭 39 卒）＞

●週に 2 日人間ドック業務の勤務をしています。残り 5 日間は家事手伝い、美術館めぐり、一人旅、友人との飲み会を楽しんでいます。獨協時代の思い出としては、修学旅行の岡山、四国、小豆島めぐりです。鷺羽

山からの素晴らしい瀬戸内海の眺め、高松の宿で友人と夜こっそり抜け出した事、小豆島で K 君が猿をからかって襲われそうになった事などが懐かしく思い出されます。

＜佐藤 忠一（昭 39 卒）＞

●獨協大を卒業して 50 年。離職して 2 年になりますねゆっくり、のんびりしております。時折同期の人達と飲み歩くのを楽しみにしております。

＜小林 忠三（昭 39 卒）＞

●住民が少ないので町会の手伝いを少しした。そうしたら役職に就いてしまった。又、今年ライオンズクラブに入会した。会合は毎月椿山荘で行う。獨協時代を思い出す事に！本年創部 110 年、端艇部出身の私は、OB 会の執行スタッフなので現役の頃と同じ、土・日の過ごし方、家の者はあきれている。又戸田へ行くのって…

＜宮田 雅則（昭 39 卒）＞

●高校 3 年の夏休みにホームスティした女性と昨年より 30 年振りに文通再開。乙女が淑女に青年はおじさんに、そしてエアメールが電子メールに変わっても、生き生きとしたドイツ語はやはり wunderbar（ブンダバア）。tschuss!

＜池内 伸一郎（昭 49 卒）＞

●昨年末から同級生の植村秀則と月に 1～2 回はライブハウスやロックのコンサートに行っている。還暦前の抵抗で、いまだにロックバカ！！若いと思っています。現在大田区で整形外科開業してます。今年こそ同級生のみんな、集まりましょうよ。

＜神田 良介（昭 49 卒）＞

●卒業後一度も母校に行っていません。獨協高校で学んだことが、その後の人生に大きく影響していると思います。現在は眼科開業医として普通にゴルフなどして過ごしています。

＜茂澤 克己（昭 49 卒）＞

●卒業して早 40 年。現在会計士として上場企業や学校法人などの会計監査に従事しております。高校の 3 年間を通じて我が新独クラスを主管してくださったのは、今は亡き合田憲先生です。感謝そして合掌…。

＜松本 兼二（昭 49 卒）＞

●卒後早や 30 年、大学進学の際には当時の主管の久慈先生に大変御迷惑をおかけしました。琉球大学卒業後は大学院に進み学位を取得後、大学病院に助手として残りました。現在は都内の生命保険会社にて査定医として働いています。

＜浅井 俊晴（昭 59 卒）＞

●卒業して早や 30 年、転職し福島県に赴任、震災、原発事故を経験し、この国の行く末に想いをはせつつ、毎日元気に働いています。上京し母校の前を通るたび、あの頃をなつかしく思い出します。

＜大塚 圭（昭 59 卒）＞

●2 年前の 11 月に父が亡くなり、津田胃腸科医院の四代目の院長に就任しました。実家の診療所は明治 29 年に曾祖父が開業して今年で 117 周年になります。一人の内科医として、病に苦しむ患者さん方のお役にたてるよう精進してゆきたいと考えております。

＜津田 恭彦（昭 59 卒）＞

●獨協学園を卒業して 30 年が経ち、現在 48 歳とな

私の近況 卒業 10年

りました。子供が6歳と3歳でわんぱく盛りです。最近では獨協OBと昔話に花を咲かせております。先日獨協 Doctor's クラブで主管の高木修先生とお話ができて、同窓会をしましょうとお約束しました。

＜丸山 泰幸（昭59卒）＞

●卒業20周年の節目を迎える今年、7月13日（日）に椿山荘で同窓会を開催したいと動いています。まだ告知葉書が届いていない方は主幹事の塩高顕一郎まで。Facebookもしくはメール (shioken5074@yahoo.co.jp) にて是非ご一報下さい。

＜田林 綱紀（平6卒）＞

●歯科医師になって14年。今は、祖父（他界）・父そして私と三代続いている山内歯科医院に週3日勤務し、埼玉県朝霞にある安藤歯科医院に週3日勤務しています。高校時代吹奏楽部でサクスを吹いていましたが、今は楽器とは縁のない生活をしています。今年春に中学1年になる息子と3年生になる娘の父親で

す。

＜山内 普史（平6卒）＞

●今年、東京大学博士後期課程を修了し、学位を取得しました。物理と情報理論の研究をしています。4月からようやく社会人です。専門分野に囚われず、多方面で活躍していきたいと思っています。

＜大坪 洋介（平16卒）＞

●現在、大学院4年生となり日々口腔癌の研究に奮闘しております。大学院卒業後も引き続き研究を行っていきたく考えています。高校時代に夢を画いていた医療職の研究者になる為に日々前進しています。

＜白子 要一（平16卒）＞

●卒業して10年がたちました。現在は日本大学板橋病院で小児科医として、日々奮闘する毎日です。小児科医として、より一層努力していきたいです。

＜能登 孝昇（平16卒）＞

●妻が妊娠し、3月出産予定です。産まれてくる子どもの事を考えると楽しみで待ちきれません。

＜森山 勇太（平16卒）＞

獨協中学・高等学校PTAより「獨協祭・バザー用品ご寄付のお願い」

PTA会長 鈴木 一郎

昨年は、多くの同窓生の皆様より獨協祭・バザーにご協力いただきまして誠に有り難うございました。おかげさまで例年以上の収益金をあげることができ、子供たちに還元することができました。この紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

さて、今年も9月27日（土）・9月28日（日）の日程にて、獨協祭が開催されます。PTAでは昨年に引き続き、同窓生の皆様に獨協祭に参加していただき、更にバザー用品のご寄付ならびにご提供もお願いしたいと考えております。

バザーの収益金は、学校の施設改善費の一部ならびに学友会への補助金としてクラブ活動等の活性化に役立てられております。皆様には、後輩である在校生のために、まだお手元に眠っているお品物がございましたら、下記要領をご参照のうえ、ご提供下さいますよう重ねてお願い申し上げます。

また、獨協祭ならびにバザーにも、ぜひ一度遊びにいらしてください。在校生、PTA委員一同、心よりお待ちしております。

記

1. バザー用品受付期間とご提供の方法

- ・9月1日（月）～9月26日（金）
- ・宅急便にて下記迄お送りください。
（元払いでお願い致します。）

〒112-0014 文京区関口3-8-1

獨協中学・高等学校「PTA厚生委員会」

TEL 03-3943-3651

- ・直接学校へご持参いただく場合は、主事室前廊下で受付しております。

＊お問い合わせ先 事務・淀縄（よどなわ）まで
（ロックアウト期間中の8月を除く）

2. ご提供品について

- ・新品もしくは未使用のものをお願い致します。
- ・会社名などが入っているもの、試供品・景品・粗品などはご遠慮ください。
- ・食品は賞味期限に余裕のあるもの、未開封のものをお願い致します。



物故者名簿 (『独協通信』80号以降) ご冥福をお祈り申し上げます

卒業年	氏名	物故年月日	昭和 20	松田 和長	H.25.5.16	昭和 37	中島麒一郎	詳細不明
			昭和 20	武田 輝彦	H.25.11.26	昭和 37	新延 道夫	詳細不明
昭和 7	田中 正名	H.24.5.24	昭和 20	小宮山昭一	H.25.2	昭和 37	春野 尚正	詳細不明
昭和 7	長野 英夫	H.24.9.25	昭和 20	堀江 吉宏	H.26.3.18	昭和 37	荒木 龍郎	詳細不明
昭和 7	藤代 弥	H.23	昭和 20	向山 卓	H.24.12	昭和 37	河原 実	詳細不明
昭和 9	飯島 豊	H.23.11	昭和 20	園部 謙二	H.25.2.9	昭和 37	草桶 広之	H.22.11.26
昭和 10	弓削 義邦	H.25.10.26	昭和 22	浅井 正昭	H.24.1.24	昭和 37	長島 信行	詳細不明
昭和 12	美田 秀夫	H.24.8.13	昭和 22	西端日出男	H.23.12.3	昭和 37	菅野 高之	詳細不明
昭和 12	鈴木 藤三	H.25.1.23	昭和 25	石井 光	H.25.6.6	昭和 38	佐藤 幸夫	H.24.12.26
昭和 12	伊藤 和男	H.25.6.27	昭和 25	上田 和雄	H.24.10.1	昭和 39	山田 哲男	詳細不明
昭和 13	田辺 正夫	詳細不明	昭和 25	酒井 博	H.25.10.5	昭和 40	高野 邦彦	H.25.11.9
昭和 13	湯浅 幸男	詳細不明	昭和 25	鈴木 規允	H.25.11.16	昭和 40	塚田 二郎	H.24.11.20
昭和 15	畠野 輝夫	H.24.12.26	昭和 25	江川 保二	H.24.2.19	昭和 41	石原 陽一	H.25.6.7
昭和 15	井部 広信	H.25.1.29	昭和 26	辻 晴雄	H.24.7.23	昭和 41	小守 尚之	H.25.2.2
昭和 15	鈴木 英夫	H.26.1.28	昭和 27	大熊 至夫	H.21	昭和 41	山中 和雄	H.25.10.9
昭和 16	佐藤 恒徳	H.25.2.23	昭和 28	大塚 隆也	H.25.5.23	昭和 46	井口 英夫	詳細不明
昭和 17	高橋 淳	詳細不明	昭和 29	西野谷忠男	H.25.3	昭和 46	江山 謙二	詳細不明
昭和 18	笹目 邦夫	詳細不明	昭和 30	梅田 博	H.25.12.29	昭和 46	田和 淳一	詳細不明
昭和 18	和田 秀夫	詳細不明	昭和 32	浅見 陸郎	H.24.4	昭和 46	西村 仁	詳細不明
昭和 18	渡辺 俊男	H.24	昭和 34	本間 紀	H.25.1.29	昭和 46	大原 伸一	詳細不明
昭和 19	市原 朔雄	H.25.4.22	昭和 35	鈴木義三郎	H.25.12	昭和 46	田渕 信一	詳細不明
昭和 19	岡本 淑人	H.24.8.17	昭和 35	長沼 重朝	詳細不明	昭和 46	知久 忠宏	H.25.10.23
昭和 19	木村 政雄	H.22.12.23	昭和 36	糸山 康雄	H.11.10.19	昭和 46	山下英二郎	H.26.5.4
昭和 19	斎藤 重夫	H.25.5.2	昭和 36	白石 正利	H.24.12	昭和 46	吉岡 照男	詳細不明
昭和 19	菅原 武司	H.23.2	昭和 36	横山 浩尉	詳細不明	昭和 48	佐藤 裕章	H.25.6.15
昭和 19	山村 正夫	詳細不明	昭和 37	天田 忠正	H.25.5.2	昭和 48	千葉 雅史	詳細不明
昭和 20	水村 悦治	H.24.8.1	昭和 37	伊藤龍太郎	詳細不明	昭和 48	大河原健志	詳細不明
昭和 20	井上 邦男	詳細不明	昭和 37	荻野 彰人	H.24.7.26	昭和 49	横山 耕平	H.25.5.4
昭和 20	黒木 悟郎	H.25.12.6	昭和 37	小宮 武	詳細不明	昭和 56	小沼 勝宏	詳細不明
昭和 20	新井 武二	H.22.3	昭和 37	佐野 勝巳	H.25.7.9	平成 7	今井 啓太	詳細不明
昭和 20	白石 輝夫	H.25.4.6	昭和 37	中川 光彦	H.25.1.30			

平成 26 年度 獨協祭参加依頼 9月 27 日(土)~ 28 日(日)

広報委員長 竹内 文生



獨協同窓会では平成 20 年度から獨協祭に際し一部屋をお借りして参加してまいりました。これまで、獨協の歴史を振り返ることを企画展示してきました。歴代の校長先生方の業績や本学とのかかわりなど写真や資料など展示してまいりました。本年の企画は第 6 代校長・長井長義先生の業績を紹介することとしています。我が国の薬学の発展に大いに貢献し、その後 13 年余にわたり本学の校長を務められました。

さて、本学の歴史を振り返ることも貴重ですが、近年業種ごとと同業者同窓会や地域単位での同窓会が企画されて、活発に活動されているのでこれらの紹介もこの場をお借りして行っています。また、独協通信のクラス会だより欄にも紹介されていますように、学生時代のサークル、部活動の OB 会も盛んに開催されています。そこで、そうした OB 会の紹介も今後は拡充していきたいと考えております。同窓生の皆様方におかれましては、そうした活動の模様を獨協祭でご紹介いただければと考えております。獨協祭の場が同窓生の交流の場として活用していただけるように願っております。

本年の獨協祭は 9 月 27 日(土)・9 月 28 日(日)となっております。参加をお考えの方々はぜひ同窓会までご一報ください。

編集後記

広報委員長に返り咲き、副会長職と兼ねましたことから、独協通信の編集に十分に関わっていません。そのため本号は 16 頁となってしまいましたが、20 頁乃至 24 頁での発行も可能ですので多くの方からの原稿をお待ちしております。以前からもこの欄をお借りしてお願いしていますが、同窓生諸兄の

在学中の思い出や現在のお仕事のご紹介等も興趣を催すテーマだと思います。また、獨協に関するトリビアなども良いかと思います。同窓会に関わるようになり、色々な方との交流の中で思わぬ事実を知って吃驚することもあります。紙面づくりに皆様方のご協力をお願いする次第です。(竹文)